

JELA NEWS

ジェラ ニュース 第44号 2017年12月15日発行 発行責任者 森川 博己

一般社団法人日本福音ルーテル社団 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp

難民支援／世界の子ども支援／ボランティア派遣／リラ・プレカリア(祈りのたて琴)／奨学金制度／宣教師支援

私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕えます

お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。 マタイによる福音書25章35～36、40節



昨年を上回る 16 名で米国のワークキャンプに参加

毎年の夏にアメリカで行われる「グループ・ワークキャンプ」に、今年は 16 名の若者を派遣しました(昨年は 9 名)。ホームステイやボランティア活動を通じて、全員ひとまわり成長して無事に帰国しました。詳しくは 2 ページ以下をご覧ください。

グループ・ワークキャンプ 2017 参加者レポート …… 2～4 難民支援：武装難民が来たら射殺する?(山本哲史)／
2018 年度の米国キャンプ参加者募集 …… 5 熊本地震被災学生支援 …… 6 春のチャリティコンサート報告 …… 7
読者からの便り／川柳ひろば入選作発表／支援者一覧／編集余話 …… 8



人生を変える道を一緒にあゆもう グループ・ワークキャンプ2017年参加者レポート



<キャンプの沿革>

1976 年に米国コロラド州を襲った大洪水の被災者を支援するために、米国のキリスト教青年書専門出版社「グループ」がボランティアを募り、全米から集まった 300 人により始まったキャンプ。貧困地区の家屋修繕とキリスト教賛美集会を組み合わせたこの催しは、現在は全米・カナダ及びその周辺国の 50 以上の地域で開催され、さまざまなキリスト教会・教派の青年が毎年、合計数万人参加しています。クリスチャンでなくても参加可能。JELA は 2001 年からこのキャンプに、延べ 150 名前後の青少年を日本から派遣してきました。2 度、3 度と参加する人が大勢います。

今年は、7 月 26 日～8 月 8 日に 16 名の青少年を派遣し、オハイオ州アクロン市でホームステイをした後、ノースカロライナ州トーマスヴィル市のキャンプに参加しました。キャンプのテーマは“THE ROAD”（道：人生を変える道を一緒にあゆもう）。

以下に参加者全員のレポートの一部をご紹介します。もう少し長いレポートは、JELA のホームページ（www.jela.or.jp）でご覧いただけます。

《よく登場するカタカナ用語の意味》

クルー＝一緒に家屋修繕ボランティアを行う 5～6 人のグループ

ゴッド・サイティング＝神の存在や働きを感じる体験、またはそれを共有する時間

デボーション＝祈ったり、聖書で読んだことを語り合ったりして神に心を傾ける時間

レジデント＝修繕対象の家屋の住人

ワークサイト＝家屋修繕ボランティアの現場

奉仕の喜び



梅津 幸奈

（東京都・15 歳、ルーテル大岡山教会）

私のグループが担当したお宅はドアの鍵が閉まっていた、住人の方々と顔を合わせることもありませんでした。さまざまな事情があると理解していたつもりでしたが、少しがっかりしたような、淋しい気持ちになり、心のどこかで感謝されることを期待する自分がいたことに気づきました。感謝されたいとか、どのように相手の役に立ったか知りたいと思うのは、見返りを求めているからだと思います。でも、クルーや JELA グループとのデボーションを通して、助けを必要としている人に神様の愛を示すことが奉仕なのだと分かり、辛い重労働でしたが、最後まで頑張ることができました。



村木 津希子

（滋賀県・16 歳、ルーテル大阪教会）

担当した家はかなり作業量が多かった

ので、3つのクルーからなる 17 人という大人数での作業となりました。その中に日本人は私だけで、うまくやっていけるだろうか、これでいいのか、と不安になることがキャンプ中に何度もありました。でもみんなが優しく、わかりやすい英語でアドバイスをしてくれました。本当に優しくて、にぎやかなクルーでした。いつもワークサイトはやる気と、音楽と、笑い声で満ちていました。



小泉 愛里花

（山口県・18 歳、ルーテルシオン教会柳井チャペル、2 回目の参加）

私のクルーは、おばあさんの家のペンキ塗りと、玄関のウッドデッキ作りをしました。作業は大変で、特にウッドデッキを作るのがとても難しかったです。そのうえ、言葉が英語なので集中して話を聞く必要がありました。どの工具を使ったら良いのか、何を話そうかなど、ずっと考えながら作業をしていました。去年はそのことで精一杯のまま一週間が終わり、もっと話せばよかったと後悔しました。今年こそはもっと話そうと思い、自分の知っている英語を最大限に使ったり、ジェスチャーや写真を使ったりしたら会話が広がり、クルーの人ととても仲良くなれました。

自分の殻を破る



里中 りのん

（神奈川県・15 歳、2 回目の参加）

火曜日のプログラムで「イエスさまと歩んだ人生地図」というものを描きました。その地図の中から、これまでの道のりの中で大切だったことを 2 つずつ分かち合う、という時間がありました。去年だったら「分からないです、ごめんなさい」と言う場面でした。今年は違いました。言いたいことはすぐに決まりました。6 歳の頃にお母さんと教会に行ったこと、去年のワークキャンプに参加して前よりも神さまとの距離が縮んだことでした。自分が知る限りの単語と文章を並べて、ジェスチャーで説明しました。恥をかく覚悟で必死に説明したら、クルーの人が真剣に、うなずいて聞いてくれていました。



宇佐美 舞弥

（神奈川県・18 歳、2 回目の参加）

この 2 週間、神様は私に新しい「道」を与えてくださいました。自分が一番変わったのは夜のプログラムのゴッド・サイティングの時でした。私は勇気を出して前に出て、その日に自分が神様を感じた時のことを発表しました。作業が進められなかった私たちに作業を与えてください、とお祈りしたことを。ここで作業が進んだこと、そして、そのことについて勇気を出して大勢の参加者の前でスピーチをしたことが神様を通して起こったことだと実感しました。



大坪 奈々実

（静岡県・16 歳、ルーテル蒲田教会）

昼のデボーションでは、神様について一人ひとりの考えを打ち明けたり、今まで神様と歩んできた道のりを話し合ったりしました。私は最初、ここで話せるような英語力はないから、聞いているだけで、考えを積極的に出そうとは思っていませんでした。しかし、クルーの子が私に聞いてくれたので、単語を並べただけのような英語とジェスチャーで話してみたら、みんなが真剣に聞いてくれていて本当に嬉しかったです。



柳下李 詩歩

（東京都・17 歳、ルーテル三鷹教会）

このワークキャンプで私は、世界はとても広く、自分から動かないと拓けないということを実感しました。ワークキャンプに行かないと分からないことだったと思います。この先さまざまな場面でさまざまな人と出会う機会がたくさんあると思います。少しずつこの経験を活かして、たくさんの人と喜びを分かちあえるようになりたいです。

祈りの大切さ



及川 維

（東京都・18 歳、ルーテル東京教会）

私は教会に行く機会が少なく、学校でも周りにクリスチャンがいなかったので、自分がクリスチャンであることに悩みを感じていました。ですが、このキャンプで多くのクリスチャンの人と出会い、共にお祈りをして、私の考えを遥かに超える神様への信仰心を感じ、とても刺激を受けました。今は、自分がクリスチャンであることに誇りを感じています。



大谷 由萌香（熊本県・16 歳）

なんで今日は、自分にとってこんな大変なことがあったのか。それを乗り越える力が自分に必要だから、ということがわかりました。でも、厳しい時は神様にお願いをして、助けてもらうことも出来るんだと気づきました。祈ることによって、少し気が楽になり、楽しく過ごすことができました。最初は、お祈りはあまりしてなかったけど、このキャンプを通じて、祈ることは素晴らしいことだなと思いました。



高松 実姫（熊本県・16 歳）

「自分のために、きっと誰かが祈っている」。この言葉は夜のデボーションで頂いた言葉です。この言葉が常に自分の中で支えになり何事にもチャレンジすることが出来ました。



神様と出会い、向き合った一週間



内田 奈七(東京都・17 歳、ルーテル田園調布教会、3 回目の参加)

3 回目の参加でしたが、驚きや発見、新しい学びがたくさんありました。お昼のデボーションの時間に、レジデントが参加してくれました。一人ひとり順番に神さまと共に歩む「道」について話をしていた時に、レジデントも自ら、涙を流しながら話をし、また、今こうして私たちと過ごしていることに感謝して、何度も愛を伝えてくれました。私も拙い英語で、今年洗礼を受けたこと、これからの夢に向かい歩む道を神さまが後押ししてくれたことなどを話しました。国や年齢や環境が違っても、それぞれの道にみんなで寄り添った時間に、あたたかい愛を感じました。



橋 良音

(東京都・17 歳、ルーテル東京教会)

キャンプ初日。楽しみにして仕方なかったはずなのに、クルーに会うことが不安でたまらなくなりました。何を言っているのかもわからないし、思っていることを伝えることもできなくて、苦しいまま一日が過ぎていきました。二日目は朝からワークがありました。相変わらず話していることは分からず、アメリカで過ごしていくのがどんどん怖くなっていきました。でも、その日の夜のプログラムの中で、「神様はいつでもあなたと共にいる」と言っていました。速い英語の中で、なぜかそだけ聞き取れました。いつもならなんとなく聞いていて分かっているつ

もりだったこの言葉が、この時とても嬉しくて安心しました。



田中 春音

(東京都・14 歳、ルーテル蒲田教会)

神様や人生のことについて考える時間が与えられた時、いじめがあって悲しみ、苦しみ、泣き叫んで辛い思いをした頃があったけれど、今まで神様が見守ってきてくださっていたことを感じました。



六倉 明衣(千葉県・18 歳)

夜のプログラムやクルーとのデボーションは本当に素晴らしく、何回も主の栄光に感動し、また世界中にはこうしたたくさんのクリスチャンの仲間がいるんだなと実感し、日本では感じるができない嬉しさと安心感を得ました。



本間 いぶ紀

(福岡県・17 歳、ルーテル甘木教会)

毎晩のプログラムでイエス・キリスト、神様をより深く知ろうと思うようになったと同時に、信じる気持ちがより一層強くなりました。



木村 のえる(熊本県・16 歳)

自分の一番の学び。それは神に出会うこと、神を信じること、そうすれば救われるということです。自分はひとりじゃないんだって思うと、少し強くなれました！

保護者の声

★米国のスケールの大きさや、たった一人でのコミュニケーション等で自信が付き、帰国後は自主的に行動することが増えました。

★毎日まわりの人へ感謝することを覚ええました。

★自分のことを見つめ直したり、神様へ感謝したり、内面の変化がありました。

★奉仕を通じて、神様のことを学び、仲間ができたことがよかったです。堅信礼を近く受けたいと考えているようです。

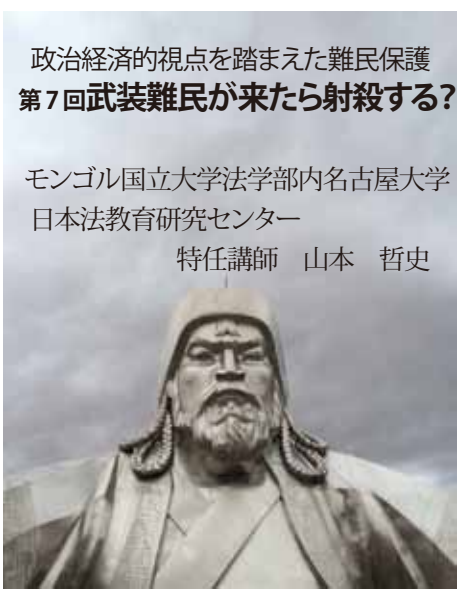
★今後も是非、米国ワークキャンプを続けてほしいです。

★日本人同士でもアメリカ人とでも、コミュニケーションで努力しなければならなかった体験は有益でした。自分から積極的に初対面の同級生や先輩に働きかけられるようになり、驚いています。

★一つのことにくよくよ悩み続けることなく、切り替えが早くなり、行動力も出てきた。視野が広がったお陰と思う。

★娘は求道中ですが、昨年以上に恵まれ、種まきをされ、喜んで帰ってくることができました。

※右ページに来年の募集案内があります。



この連載では、人々が難民保護のための法を守るように仕向けるための工夫について考えています。前回のコラム(第6回)では、モンゴルの遊牧民の移動から話を起こして、人の国際移動に係る国際社会のルールや移動の自由を守る人権について書きました。また、「ノン・ルフルマンの義務」(難民条約 33 条)を中核として、難民は命の危険の待つ本国に送還してはならないことになっているとお話しました。

■可能性に配慮した扱い

犯罪の容疑者や被疑者の段階の人を犯罪者扱いしてはいけませんね。難民の場合はどうでしょうか。麻生副総理の発言が波紋を呼んでいます。日本に「武装難民が来たら」射殺するのか、という物騒な物言いでした。これを聞いた一部の人は猛烈に批判しているわけですが、実はこの発言には偶然にも難民保護の本質を問う内容が含まれています。

難民に限らず、日本の領海に無断で侵入する者は取り締まりを受けます。さらにもし相手が武装しているとすればどうなるか。当然ながら対応の方針を定めておく必要があります。麻生副総理はそのことを言っていたのだと思いますが、世の中ではこの発言の「射殺」という部分に過剰反応する人が少なくなかった。確かに「そんな言い方しなくても」という気持ちはわかります。ただ、ではどうするかという部分について政府や行政は知らないふりをするわけにはいきませんね。

安全保障や治安維持の問題だけでなく、要するに一般論として、難民かどうか

はっきりしない人をどうするか、という点を明確にしておく必要があるわけです。武装している相手を捕まえて収容してから審査するというのは困難でしょうから、射殺というのも現実的には必要な場面も出てくるかもしれない。ただ一般的には難民条約の定義に該当するかどうかの審査をしよう、ということになる。重要なことですが、この審査の段階においても難民条約は諸国にいくつかの義務を課しているのです。

■亡命偏重の難民保護

このようなことで、審査というのは人もお金も時間もかかるとしても、義務ですからしないわけにはいかない。ならばいっそ審査をしてくれという人(申請者)を減らしてしまおうか、となるわけです。どうやって減らすのか? たえば船でやってくる申請者を減らすために、領海に入る前の海で捕まえて本国に送還する。これ、実際に行なっている国があるのですが、そのときに「難民認定申請なんて、させないよ」というのは角が立つので、「なんて危ない船に乗っているんだ! 助けてあげるからこっちの船に乗り換えなさい」とか言う。送り返したのではなくて、海難救助してあげたのだ、という形。

法を使えば、こういうときには「その海難救助は実質的にノン・ルフルマンの義務のための審査を回避しようとしていることになるからだめだよ」という指摘くらいはできますが、根本的な問題解決にはつながりませんね。イタチごっこ、というか、この方法がダメならまた別の方法で難民認定申請者を減らそうとする妙な「政策」が工夫されることになるかもしれません。

一番良い方法は、申請者というか、難民を生み出すような社会を改善することなんです。それができない。というのは、現在の難民保護を形作っているのが難民条約なのですが、これには難民の出身国をどうこうするというのが一切書いてない。これを研究者たちは「亡命偏重」と呼び、つまり難民問題は亡命という形で受け入れ国に対応に全てを任せよう、という方式になっていることを指摘しているのです。そして亡命偏重というのは、つまりは申請者を減らすということを本質的には追求できないというわけです。

■申請者数はどのように増減し、どうい

結果を導くか

日本ではこの数年特に難民認定申請者が急増していて、審査が追いつかないということが言われています。その急増する申請者の中に、どうも難民とは全く関係のない人も多数含まれているという疑いもあり、本物の難民も審査を受ける際に必要以上に疑いの目で見られる、という傾向もあるようです。審査結果が出るまでの期間も長くなる。何より日本の行政に負担がかかり、難民を厄介者として見る風潮が出てくる。これと言った明確な根拠もないまま、印象論が広まってゆく。

そこで、法の議論と同時並行で、難民認定申請が増えることで生じる負担や、どういときにどういう国に難民認定申請は増え、逆に減るのか、といったメカニズム(難民の行動パターンとでも言いましょうか)を考えることも重要であることがお分かりいただけると思います。こういう分野についていくつか研究がありますので、次回は少しそのあたりをお話します。

写真: モンゴル・ナライフ地区にあるチンギス汗の巨大な像(モンゴル人はスケールの大きいものを好む。2017 年 9 月山本撮影。)

2018 年米国ワークキャンプ参加者募集

◆派遣期間: 2018 年 7 月 25 日(水)～8 月 7 日(火)

◆内容: ペンシルベニア州で一週間のワークキャンプ(家屋修繕、聖書の学び等を通して参加者の信仰的・人間的成長を促す催し)に参加し、近隣の州でホームステイもします。年齢は、2018 年 8 月 1 日現在で 14 歳～20 歳の方が応募できます。

◆参加費用: 20 万円

※お友達を誘って参加いただいた方には、それぞれの参加費から 5 千円割引引きます!

◆問合せ・申込用紙請求先: 150-0013 渋谷区恵比寿 1-20-26 日本福音ルーテル社団(JELA)アメリカ・ワークキャンプ係り
電話: 03-3447-1521
FAX: 03-3447-1523
E-mail: jela@jela.or.jp

◆申込締切: 2018 年 4 月末日
※募集要項の詳細は、ホームページ(www.jela.or.jp)でもご覧になれます。皆さまの参加をお待ちしています。

熊本地震被災者支援 今年も被災学生を支援しました

2016年4月に発生した熊本地震から1年半と少し経ちましたが、復興には今しばらくの時間がかかるようようです。このため、JELAは昨年に続き、被災学生の学費の一部を奨学金として支援いたしました。

支援金の総額は昨年同様300万円です。この中には、全国15か所で行われた春の「世界の子ども支援チャリティコンサート」で捧げられた寄付金、三鷹のルーテル学院同窓会からの寄付金、ルーテル市ヶ谷教会主催のチャリティコンサート「LOVE」からの寄付金、東日本大震災で被災されたお一人の方からの高額寄付金が含まれています。

7月と8月にJELA事務局長の森川博己が熊本を訪れ、支援対象となる学生のお一人お一人と面談してJELAの意向を伝えるとともに、高校生・大学生合わせて16名の学費補助金として用いさせていただきました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

支援金を受け取った学生さんからJELAに届いた手紙の一部を以下にご紹介します。皆さんとても感謝されています。来年も被災学生の支援を継続できればと思っていますので、ご協力のほど、よろしく願い申し上げます。

★被災して2度の引っ越しなど大変なこともありましたが、今回のことなど、うれしいこともたくさんあり、本当に感謝しています。これから私なりに充実した高校生活を送るために、大切に使っていきたいと思います。そして今回の体験したことや皆さんへの感謝の気持ちを忘れずに、少しでも社会の役に立つ大人になりたいです。

★家のことや大学のこと、妹のことを考えると、奨学金は本当に支えになります。いただいた奨学金は私の進路についてや、妹の遠征費にあてられればと思っていました。このように応援してくださっている方々のために、自分の夢をかなえるために、努力を惜しまず、姉妹ともども、精一杯頑張っていきたいと思います。

★熊本地震で被災した私をこのよう形でご支援していただき、とてもうれしかったです。いただいたお金は、将来の夢である英語の教師になるための勉強に使わせていただきます。これからも大好きな英語を頑張っていきます。

★今回の奨学金で両親の負担を減らすことができ、非常に感謝しております。充実した学生生活を送れるのも、今回の奨学金のおかげだと思います。精神保健福祉士になれるよう頑張っていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

★地震から一年余りが経ちますが、家の近所では先週やっと解体工事が始まりました、修理が始まったりする所があり、まだまだ地震の被害の凄さを感じているところです。そのようななか、ご支援をいただいたことにとても感謝しています。JELAから受けた支援を励みに、いつの日か自分が誰かを少しでも支援できるように努力したいと思っています。

★貴重なご支援をありがとうございました。私は精神保健福祉士の資格を取るために勉強しています。今回、震災を経験して、精神保健福祉士は障害を持つ人だけでなく、すべての人と関わり助けできる資格・職なのだと再確認することができました。これからも勉学に励みたいです。

★無事、後期分の授業料を納めることができました。さまざまな支援をされているなかで、熊本地震の支援金として私に支援してくださり、本当に感謝しています。おかげでアルバイト中心の生活にも余裕ができ、自分の時間をとることができています。その時間を自身の勉強に使って、奨学金をいただいた方々へ少しでも恩返しとなるように頑張りたいと思います。

★ある日突然地震が起こり、当たり前のようにご飯を食べたり、好きなテレビを見ることもベッドで寝ることも、しばらくの間、することができなくなりました。その経験から、自分が過ごしていた日常は、すぐく恵まれていたものだと感じました。大学に行って勉強することも友人と話したりすることも、すごくありがたいものだったと

思いました。いつこのような地震がまた起こるかわかりません。だからこそ、私は後悔しないような時間の使い方をしたいと思っています。私の将来の夢は、小学校の先生になることです。

★私は将来、ホテルマンになりたいと思っています。職種は違いますが、今続けている本屋のアルバイトを通して、お客様のことを思う気持ちや接客マナーなどが少しでも生かされればよいと思います。私の家は母子家庭で、母も一人で仕事を頑張っていますが、私もアルバイトをしながら、少しでも助けになるように頑張っていきたいです。

★遠い所から熊本まで足を運んでいただき、ありがとうございました。私は地方公務員を目指しています。ご支援をいただいたことに感謝の気持ちを忘れず、日々努力をしていきます。公務員になれば、私が誰かのために支援ができるような人になりたいと改めて思いました。

★日本福音ルーテル社団からのご支援のおかげで、自分の進路に向けて一心に勉学に励むことができております。面接の際にいただいたジュエニクスを読ませていただきました。そこに書かれているJELAのカンボジア支援（水問題の解決）に尊敬の念を抱きました。父はアフリカで海外ボランティアを経験していることから、よく私に現地の貧しい暮らしやボランティアの現状について語ってくれました。そして、「現地の人々の暮らしがよくなるためのボランティアは、そんなになんない。表面上の支援だけで終わっていることが多い」と言っていました。だから私は、日本福音ルーテル社団の活動に尊敬の念を抱いたのです。私自身がやっている海外支援を見直すきっかけにもなりました。授業で「キリスト教保育」を学んでいます。キリスト教の人間観を知ることによって日本の保育を理解することができると私は思っています。このたびのご支援は、キリスト教の人間観の実際に触れるという貴重な経験ともなりました。そのことも深く感謝し、日本福音ルーテル社団のますますのご活躍をお祈り申し上げます。



第14回 世界の子ども支援 チャリティコンサート結果報告

ヴァイオリニストの真野謡子さん（二度目）とピアニストの後藤加奈さんを迎え、世界の子ども支援チャリティコンサートを5～7月に全国15の日本福音ルーテル教会（宇部、高蔵寺、沼津、松本、大岡山、岡崎、広島、小鹿、甲府、挙母、神戸東、大森、保谷、熊本、博多。以上、実施順）で開催しました。

全公演で927名の方々にご来場いただき、1,211,854円の寄付金を捧げていただきました。ありがとうございました。お捧げいただいた寄付金は、熊本地震被災学生の学費支援のために用いさせていただきました。

2018年度のチャリティコンサートには真野謡子さんが継続して出演してくださり、共演者はギターの松田弦さん（まつだ・げん。初登場）の予定です。今から楽しみにお待ちください。



6月3日（土）松本教会



7月1日（土）挙母教会



6月4日（日）大岡山教会



7月2日（日）神戸東教会



6月10日（土）岡崎教会



7月8日（土）大森教会



5月7日（日）宇部教会



6月11日（日）広島教会



7月9日（日）保谷教会



5月13日（土）高蔵寺教会



6月17日（土）小鹿教会



7月15日（土）熊本教会



5月14日（日）沼津教会



6月24日（土）甲府教会



7月16日（日）博多教会

川柳ひろばだより

第10回川柳ひろば入選句発表!

次の三句が選ばれました(柏木哲夫・選)。おめでとうございます。追って粗品をお送りします。

<最優秀句>

・五十年複利で貯めたこの脂肪(およし)

<優秀句>

・ベルト穴二段ゆるめてうなぎ喰う(うなたろう)
・包丁の音止みチンの音ばかり(とんちゃん)

以下のような作品もありました(川柳ひろば管理人・選、柳名略)。

・ケーキからスマホになって子供の日
・しないなら気軽に言うな「反省」と
・赤ちゃんに耳たぶ触られ笑み漏れる
・「呆けました」失敗全てそのせいに
・「あれ取って」それが出てくるありがたさ
・孫たちのLINEに入りて安否よし
・「恵みのみ」ルターの言葉今新た
・候補者は心にもない愛を説き
・リニア線開業するころ僕シニア
・突然に秋と尿意は訪れる
・IR法依存症者のカネの声
・ギャンブルは無用無情の響きあり

作品は随時募集しています。このページ右下のJELA事務局までご投句ください。(これは内緒ですが)一度に数十句いただけると、入選作や佳作に選ばれる可能性がぐっと高まります。入選句の発表は毎号ではなく、一定数の投句者と作品がそろった時点で行います。お知り合いの方に投句をお勧めいただけると幸いです。(川柳ひろば管理人・森川博己)

読者からの便り

払込取扱票の通信欄に書いてあるメッセージや、事務所に届いたお便りの最近のものを以下にご紹介します。

♥ 聖名を讃美致します。ご無沙汰致しております。娘に男の子が授かりました。皆様の御健康をお祈りいたします。

♥ 昨年米寿との事。世田谷区からお祝いされました。よろよろ元気です。

♥ 7月1日のチャリティコンサートの開催を感謝します。至福のひとつを過ごさせていただきました。後刻、献金が届けられましたので送金します。

♥ 皆様のお働きが益々神様に祝されます様、お祈りいたします。

♥ ジェラニュース、楽しく読ませて頂きました。特に徳弘先生のブラジルでの活動報告は、励まされました。

♥ お働きに感謝しています。

♥ 楽しく読ませていただきました。

サンパウロ教会の音楽教室のために。

♥ よく落語をききに行きます。「ゴスペル落語」開いたらききに行きます。

♥ ブラジル支援のために。

♥ 暑さの厳しさに体も疲れる此の頃。皆様の上に主の祝福をお祈りしています。

♥ 難民支援の為。

♥ いよいよ 500 年の秋に向けてスパートですね。

♥ 会報を読み、賛助会員を継続します。

♥ ブラジル音楽教室のために。徳弘先生夫妻によろしく。お祈りしています。

♥ 娘がアメリカワークキャンプで大変貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

♥ 音楽ミニストーリーの報告を読みました。徳弘牧師ご夫妻の限りないご奉仕を感謝するとともに、2～30年前にたずねたブラジル伝道記念旅行でサンパウロ教会の信徒の方々が若かったことを思い出します。国情は変わらなくても教会の姿が新しい家族として交わりが広がっている教会像を知って、主の限りない導きを感謝しこれからの希望にますますつながっていくように思いました。『るうてる』10月号で立野牧師が自分の経験から、教会、牧師信徒は、宣教に本気で取り組んでいるか、とチャレンジを受けたと言っておられますが、まさに私たちは同じチャレンジを受けているように思います。日本と言わず、世界中を視野に宣教する使命があります。

♥ 貧しい子供のために。

♥ ブラジル子ども支援の為に。ささやかですが、お役に立てて頂ければ幸いです。

以上

支援者一覧

(2017年6月1日～9月30日)

穂田信子/安藤淑子/池田哲也/石田せつ子/伊藤正子/市村圭子/井上秀樹/今井早苗/谷淑代/江澤妙子/大石敏和/大谷忠雄/大塚真佐子/大嶺裕司・可代・十六夜/柿沢純江/金子佐年/ヤカ・サカ/河野悦子/京谷信代/古庄理世/小松由美/榎藤久喜/杉浦りえ/高津和子/高橋ふく子/高橋悠美子/田中淑子/鳥飼勝隆・豊子/仲吉智子/那須幸/西垣親子/西立野園子/日本聖公会北関東教区婦人会/野上きよみ/平林洋子/保坂和子/松嶋俊介/南節子/村木直樹/森涼子/森若奈/八坂由貴子/矢崎由美/安みぎわ/山県順子/山口継雄・敏子/若原奇美子/渡辺聡/JELC大岡山教会教会学校/JELC玉名教会

以上、順不同・敬称略。ご支援ありがとうございます。匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせ下さい。

JELAの活動にご支援を!
各種献金のご送金は下記をご利用ください。



ホームページからクレジットカードで寄付ができます!

編集余話

小さい頃、自分の名前(博己=ひろみ)が嫌いだ。女の子みたい、とかからかわれるたびに親を恨んだ。どうしたら改名できるのかと頭を悩ませていたところ、郷ひろみの登場で悩みは知らぬ間に解消。今では外国人に自己紹介する際に、My given name means "I am intelligent".(私の下の名は、「私は博識」という意味です)などと、余計な説明を加えたりする。話は飛ぶが、中学生棋士・藤井聡太四段の登場で今年は空前の将棋ブーム。藤井君に負けて引退した九段の加藤一二三さんは、「ひふみん」と呼ばれて若者に人気らしい。そこで閃いた! 創刊号以来ずっとMで通してきたペンネームを末尾のものに「改名」する。柔和で脱力感のある響きが気に入っているのだが……。 (ひろみん)

JELA

Japan Evangelical Lutheran Association

一般社団法人日本福音ルーテル社団

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26

Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523

Email: jela@jela.or.jp

HP: http://www.jela.or.jp

郵便振替口座番号: 00140-0-669206

加入者名: 一般社団法人日本福音ルーテル社団